



『新入社員は78歳』

～小さな会社が見つけた誰もが幸せを感じられる働き方』

市川 慎次郎 著

かんき出版 刊

定価 1,650円 (本体 1,500円+税)

の1つに、「ダイバーシティ」という言葉がある。年齢・性別・能力・人種・価値観などの多様性を生かし合って共存するマネジメント・アプローチを指すが、著者は唱える。「社員に長い間、辞めずに楽しく勤め続けてもらうには、その人の尊厳を守ることが大事だということです。その人の存在や価値を認め、その人らしい生き方ができることが最も大切です」

この会社で大事なことは2つある。「納期に遅れないこと」と「品質が保たれていること」の2つが守られていけば、「ルールや決まりごと」を押しつけない。「自由」をキーワードに、個人の裁量やモラルに委ねることだ。「言うは易く、行うは難い」が、その結果はたとえば、採用や定年も年齢不問で、標題にある「新入社員は78歳」も驚くに当たらない。社長の仕事は「会社の業績」と「社員の働きがい」を両立させることと割り切る大胆で繊細な経営手腕が、幾多の辛酸とともに伝わってくる好著である。 (山海野 玄)

著者はシャッターの「上げ下げ」を「横引き」にして特許を得た中小企業の2代目社長。「人を大切にす

る経営」を説いて先代社長が掲げた社訓は「商売は^{えん}益を求めて商売ならず人喜んでこそ商売なり」という言葉だった。この^{えん}益という漢字は、「欲」と「益」とを合体させた先代の造語である。

父親のもとで創業精神を叩き込まれた著者は、9億円の負債を抱え、暗黒の「内紛劇」を乗り越えて会社の再建に悪戦苦闘。「入ってくるお金を増やし、出ていくお金を減らす」ために、「うまくいかない会社の4大口グセ」に挑戦した。「やっても無駄」「昔は良かった」「今までこうやってきたから」「一発ヒットさえすれば」という口グセが蔓延する職場風土の改革に挑む。その奮戦記は読んでのお楽しみ。

現代企業に求められるコンセプト